



写真1 帯坂標識

帯坂

帯坂(おびざか)は、怪談「番町皿屋敷」で有名なお菊が、髪をふり乱し、帯を引きずりながらここを通ったという伝説から名がつけられたと言われています。

また、寛永年間(1624～1643)外堀普請の後に市ヶ谷御門へ抜ける道として切り通されたので、切通し坂の名もあります。

十枚組の南京古渡の皿を一枚割ってしまい、主人に手打ちにされかけたお菊が古井戸に身を投げた後、お菊の亡霊が井戸で夜な夜な「いちまい、にまい…」と皿を数える情景が周知となっている「番町皿屋敷」は創作の域を出ず、舞台となった青山主膳邸も実際には存在しません。

しかし、怪談のみならずコミカルな話に再編された落語、恋愛悲劇の物語となった戯曲等にも題材として取りあげられ、日本各地に類似の話が残っている「皿屋敷」の物語は、日本の夏の定番として古くから親しまれています。

参考文献

中央公論新社「日本怪談集 幽霊篇」
 田中 貢太郎「皿屋敷」
 岡本 綺堂「番町皿屋敷」
 (一社)千代田区観光協会
 URL : <http://www.kanko-chiyoda.jp/>



写真2 靖国通りから帯坂を望む

